


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.46

● ● ● 目 次 ● ● ●

・報告「パネルディスカッション：生殖看護の役割を考える」	1
・第15回学会集會のご案内	3
・これから行われる学会・研修会情報（2017.3～2017.6.）	4
・第11回生殖看護実践セミナーの開催報告	5
・勉強会の開催報告（関東地区）	5
・勉強会の支援と助成	6
・研究助成のお知らせ	7
・理事会報告	7
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8



報 告

「パネルディスカッション：生殖看護の役割を考える」

於 第19回日本IVF学会学術集會

日本生殖看護学会理事長 野澤美江子

平成27年度の事業計画として提案させていただいた本学会の将来構想の一環として実施しました、第19回日本IVF学会学術集會での共催企画：パネルディスカッション「今、生殖医療に求められている看護の役割～不妊治療における意思決定支援に焦点を当てて～」の報告をさせていただきます。この学会は、10月1日（土）・2日（日）に神戸国際会議場で開催され、パネルディスカッション会場には、本学会員24人を含め、医師やエンブリオロジストも加わり総勢50人を超す参加者がいらっしゃいました。

昨今の生殖医療の範囲拡大や複雑化に伴い生殖看護に求められる専門的役割も変化していますが、生殖看護の中核は「意思決定支援」であると考えます。今回は現場で遭遇する機会の多い不妊治療をめぐる意思決定支援に焦点を当て、企画しました。最初に治療プロセスの段階に沿って、プレコンセプションの段階、ステップアップの段階、治療終結の段階における対象の特性の紹介と合わせて相談窓口の開設、日々の診療での関わり、セミナーやリーフレットを通じた情報提供など意思決定支援の実際や課題について、3人のパネラー：久保島氏（蔵本ウイメンズクリニック）、藤島氏（越田クリニック）、小松原氏（IVF大阪クリニック）に発表いただきました。いずれのパネラーからも、対象のニーズの把握やそれに寄り添った対応、選択へ向けた情報提供、選択後の支援などの重要性について、対象や場、方法を変え話されていたように思います。その後、指定発言者として患者の視点・立場でFine理事長の松本氏から、「わかりやすい情報提供」と「患者に寄り添ってほし

い」というニーズのバランスは治療の段階によって違ってくるといふご示唆をいただきました。続いて、社会的視点・立場からの指定発言をお願いしたNHK報道局社会部記者の牧本氏は急きょVTRを通じての参加になりました。これまでの取材を通して、医療現場では頑張れ、希望に沿って続けるといふ印象を与えてしまう雰囲気改善や生活を潰さない配慮の必要性、サポートを見えやすくするアピールの工夫などについて発言いただきました。

その後のディスカッションでは、必要にして十分な情報提供とは何だろう、また、日頃看護師は生殖機能のデータなどに焦点を当てがちであるが、血圧測定などを通して日々の健康状態をチェックしたり次世代に向けた健康教育など、身体的なQOLを保持していくことも大切であることも挙げられました。また、医療者間の連携については、プライベートクリニックと大学病院など施設の特徴によって困難な状況に違いがあることも発言されました。また、患者の生活を潰さない工夫として、不妊治療は生活のほんの一部分にすぎないのだといふ意識を持ってもらえるよう、就業女性の増加に合わせ夜診を取り入れたり、待ち時間を短くする工夫など仕事との両立支援を行っている施設の紹介がありました。また、対象の想いを全部理解することは難しいことですが、少しずつ糸をほぐしていくように関わる必要があり、そのためには看護師の研鑽も大切であるといふ発言には皆さんも納得されていたようです。最後に、松本氏から医療者に向けて、治療の「不成功」や「失敗」といふ単語は使ってほしくないといふ願いがありました。患者にとって敗者のレッテルになってしまうので、ぜひ看護師には「行動承認」してほしいといふメッセージでした。

今回おパネルディスカッションを通じて、日頃皆様が感じているジレンマに共感したり、自施設に持ち帰って早速実践してみたいと思われた支援も多かったでしょう。そして、何よりも改めて生殖看護の役割を問直す機会になったと思います。大会長の塩谷雅英先生、当日会場にご参加いただいた皆様、素晴らしいプレゼンテーションをしてくださったパネラーや指定発言者の皆様にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

来年の第20回日本IVF学会学術集会（大会長 吉田仁秋先生）も、本学会は共催予定です。また皆様と充実した時間を過ごすことができるような企画を考えたいと思っていますので、楽しみにしててください。



第15回日本生殖看護学会学術集会のご案内

日 時：9月10日(日) 9時受付開始

※前日9月9日(土) 【午前】…不妊症看護認定看護師ポストコース講座

【午後】…第12回生殖看護実践セミナー

場 所：新潟日報メディアシップ(2階日報ホール、20階そらの広場)

今回はメインテーマを「生殖看護を意思決定支援の視点から再考する」としました。生殖に関わるカップルが納得のいく意思決定をするために、生殖看護に携わる私たちはどのように関わっていくべきか、何をすべきか、皆さまとともに、自然豊かな新潟の地で考える機会にしたいと思っております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(学術集会長 有森直子)

●学術集会概要(仮)

9：00～ 受付開始 開会 会長口演、一般口演

11：15～ 教育講演「不妊クリニックから産科クリニックへの橋渡し 一切迫流産について」(仮)
荒川 修(荒川・大桃エンゼルマザークリニック)

12：25～ ランチョンセミナー予定

13：30～16：30 総会
シンポジウム「医療は不妊状態にある人々の意思決定を支援しているか(仮)」
一般演題(ポスター)、インフォメーションエクスチェンジ、閉会

●学術集会参加費

事前登録：会員5,000円／非会員6,000円／学生(大学院生・研修生は除く)1,000円

当日参加：会員6,000円／非会員7,000円／学生(大学院生・研修生は除く)1,000円

●演題募集

演題申込み締切日：2017年5月15日(月)

演題申し込み、参加申し込み、参加費の納入等、詳しくは第15回日本生殖看護学会学術集会HPをご覧ください。

学術集会HPアドレス：<http://jsfn15.jpn.org/>

●お問い合わせ先

第15回日本生殖看護学会学術集会事務局(担当：有森直子、林はるみ)

新潟大学大学院保健学研究科 〒951-8518 新潟市中央区旭町通2-746

TEL：025-227-0948 事務局E-mail：jsfn15-office@clg.niigata-u.ac.jp

これから行われる学術集会・研修会情報 (2017年3月～6月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会HP / 運営事務局
3月	18日(土) ～ 19日(日)	日本助産学会学術集会 (第31回) 家族の調和をはかる助産学	あわぎんホール (徳島県徳島市)	http://jam2017.umin.jp/ 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビルディング16F 東武トップツアーズ株式会社 法人営業部 MICE 営業推進室 TEL : 03-5348-3502 / FAX : 03-5348-2704 E-mail : jam31@tobutoptours.co.jp
4月	13日(木) ～ 16日(日)	日本産科婦人科学会学術講演会 (第69回) 平和と歩む～産婦人科医学・医療～	広島グリーンアリーナ (広島県広島市) リーガロイヤルホテル広島 (広島県広島市) NTT クレドホール (広島県広島市)	http://jsog.umin.ac.jp/69/index69.html 第69回日本産科婦人科学会学術講演会 運営事務局 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-13 株式会社コングレ内 TEL : 06-6229-2561 / FAX : 06-6229-2556
6月	2日(金)	日本不妊カウンセリング学会総会・ 学術集会 (第16回) 「夢親」 不妊治療の先にあるもの 親になりたい人の存在を支えて	ニッショーホール (東京都港区)	http://www.jsinf.com/user_data/16th_meeting.php 日本不妊カウンセリング学会事務局 toiawase@jsinf.com
	11日(日)	日本母性看護学会学術集会 (第19回) ライフサイクルにおける セクシュアリティ支援 ～多様性の意識化と実践～	武庫川女子大学 (兵庫県西宮市)	http://bosei19.umin.jp/ 第19回日本母性看護学会学術集会 事務局武庫川女子大学 看護学部 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 E-mail : jsmn2017@mukogawa-u.ac.jp
	17日(土) ～ 18日(日)	日本保健医療行動科学会学術大会 (第32回) セルフケアを支援する	亀田医療大学 (千葉県鴨川市)	http://www.jahbs.info/taikai32.html 第32回日本保健医療行動科学会学術大会 実行委員会事務局 事務局長:平山香代子(亀田医療大学) E-mail : jahbs2017@gmail.com TEL (留守) : 04-7094-5672 / FAX : 04-7094-5676 〒296-0001 千葉県鴨川市横渚462 亀田医療大学 マクロ看護学研究エリア (亀田医療大学研究棟 4F)

第11回 生殖看護実践セミナー開催報告

1. テーマ：「生殖医療における多様なモラルジレンマ」

2. 日 時：平成28年10月29日(土) 13時30分～16時

3. 場 所：順天堂大学医療看護学部

4. 講 師：鶴澤 和彦先生（北里大学一般教育部講師）

5. 参加者：24名（会員13名、非会員11名）

参加者の内、生殖看護実践者は50%であり、その他は産婦人科、助産、救急・ICU、看護支援センターなど幅広い専門分野の参加者層であった。

6. セミナー内容

1) 講演

生殖医療におけるモラルジレンマの定義、関わる立場による捉え方の違いなど基本知識をわかりやすく説明していただいた。その後、2編の映像（海外の同性婚カップルが卵子提供、代理母によって子どもを授かったケース、代理母の出産により胎児に障害が起こったケース）の提示により、新しい家族のあり方、子どもの出自を知る権利、生殖医療のあり方などについて問題提起がなされた。



2) グループディスカッション

様々な立場からの意見交換ができるグループを編成した。講義内容や映像の視聴によりリアルにイメージでき、問題提起内容や日頃の実践との関連について活発なディスカッションが行われた。

3) 全体ディスカッション

各グループの発表内容を踏まえて、さらに全体でのディスカッションがなされた。産まれてくる子どもの権利や幸せを大切にしたい生殖医療のあり方、不妊治療というものを世間に伝えていくという看護職者の役割、医療者だけでなく他分野との議論の積み重ねや長期的な研究など、社会における今後の課題が見出された。

7. アンケート評価

セミナーの講演内容、ディスカッション共に90%以上の参加者が「とても役立った」「役だった」と回答した。生殖医療における現代の複雑な問題について、情報を得ることができていた。また、様々な立場の看護職者とのディスカッションをすることで、他者の考え方に触れて刺激を受け、自己の考えを確認する機会となり満足感に繋がっていた。

（報告：教育推進委員会）

2016年度関東地区勉強会報告

昭和大学病院 報告者：植崎 里美

2016年12月11日(日) 13:30～16:00 聖路加国際病院 旧館5階 研修室にて「不育症の診断、治療の現状と課題～不育症を理解し、看護の役割を考える～」をテーマに勉強会を開催しました。51名の方々が関東近隣だけではなく、遠方からも参加してくださいました。

近年、着床前診断の対象に不育症患者が含まれるようになるなど不育症の治療に拡がりが見られています。その中で、不育症を心配する患者や不育症が疑われる患者に対し、医療者は正しい情報提供を行う必要があります。そこで、不育症に関する正しい知識を身につけ、今後の看護および医療実践への活用を考えることができればと思い、このテーマを選びました。

講師には、杉ウイメンズクリニック院長である杉俊隆先生をお迎えしました。前半は不育症の基礎知識から、検査、治療、課題についてスライドを用いてわかりやすく講義して頂きました。後半は事例を用いたグループディスカッションを行いました。

【事例1】子連れ受診に対する、自施設で行っている対応策、医療者としてできる事、講義を聴いての感想【事例2】D&Cが決定した患者に対して自施設で行っているケアについて、感情表現がない患者に対する医療者の関わり方、講義を聴いての感想について各グループ話し合った内容を発表し、参加者全員で考えを共有することができました。アンケート結果では、「今後の情報提供に役立てられる」「不育症を正しく診断することで、正しい治療や次に何の治療をするのか、不妊症の治療に繋げていくことができると思った」「患者との関わり方、他施設の現状などを知ることができた」「不育症について学べたことで、患者との関わりに自信を持つことができた」「有意義なグループディスカッションだった」との声が聞かれ、今後の看護実践や自己研鑽への意欲を高めた参加者も多数みられました。

最後に、今回のみならず今後も不育症に関する知識や最新の情報などを継続して学んでいく事が生殖医療に携わる一員として重要であると感じました。不妊症看護認定看護師としてその役割が担えるよう今後も活動していきたいと思えます。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。また、日本生殖看護学会ホームページには、勉強会の企画に関する資料が掲載されています。日本生殖看護学会のニュースレターやホームページにも広報を掲載することが出来ます。資料を参考になさってください。

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等の運営費を助成します。助成金は企画1件につき1万円、当該年度の助成は3件までです。日本生殖看護学会ホームページに、応募資格や応募方法等が掲載されていますので、ご覧ください。また、助成に関してご意見等がありましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

【勉強会に関する連絡先】 教育推進委員会 担当理事：千葉大学大学院看護学研究科 坂上 明子

E-mail：akiko-sakajo@faculty.chiba-u.ac.jp

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話&FAX：043-226-2411

日本生殖看護学会勉強会等助成要項

【助成の趣旨】

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

【応募資格】

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

【助成金】

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

【助成期間】

平成28年9月1日～平成29年8月31日までの約1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成28年9月1日～平成29年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。

3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 坂上明子
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域
TEL&FAX：043-226-2411 E-mail：akiko-sakajo@faculty.chiba-u.jp

【選考及び助成の決定】

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

【助成金の使途】

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【勉強会の成果の報告】

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

平成29年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) をご参照ください。

応募は平成29年4月1日～6月30日の間に受け付けております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】 生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】 個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】 研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】 平成29年9月1日～平成30年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成29年4月1日（土）～6月30日（金）

【選考及び助成の決定】 研究助成審査会において選考審査の上、平成29年8月下旬に応募者に通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】 研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究期間】 研究期間は承認の日から1年以内とし、延長する場合や継続する場合は、年度毎に改めて申請を行い選考する。ただし、継続申請は2年を超えることはできない。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は研究が終了後、すみやかにその結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

川元 美里（将来検討委員会 幹事）

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号 聖路加国際大学

TEL/FAX：03-6226-6384 E-mail：jsfnshorai@gmail.com



理事会報告



第1回臨時(書面)理事会

日時：2016(平成28)年10月20日(木)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 入会審査：15名の入会を承認。

第1回理事会

日時：2016(平成28)年11月18日(金) 18:00~20:30

場所：聖路加国際大学本館5階506室

出席者：野澤、上澤、森明、村上、青柳、實崎、有森、清水、森恵、高橋(学術集会長)

【報告事項】

1. 第14回日本生殖看護学会学術集会の事後報告。
2. 理事長：第19回日本IVF学会学術集会パネルディスカッションの事後報告。
3. 広報委員会：平成28年度広報委員会活動計画およびNL発行計画案。
4. 教育推進委員会：第11回生殖看護実践セミナー実施報告。
5. 編集委員会：学会誌第14巻編集進捗状況。
6. 将来検討委員会：日本IVF学会学術集会参加準備状況。
7. 総務：本学会員の背景、役職・委員会構成、理事会

スケジュール案。

8. 第15回日本生殖看護学会学術集会準備進捗状況。
9. RCNイベントの情報。

【審議事項】

1. 研究助成後の研究執行遅延に対する対応を承認。
2. 日本看護系学会協議会2018年度役員選挙：野澤理事長を理事に推薦することを承認。
3. 第16回学術集会費予算：第16回学術集会のオブザーバー交通費の計上を承認。
4. 生殖看護に関するテキスト作成：本学会理事が企画書作成、出版社に提出を承認。
5. 会計：本学会通帳の名義変更として日本不妊看護学会から日本生殖看護学会を承認。

第2回臨時(書面)理事会

日時：2016(平成28)年12月5日(月)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 入会審査：3名の入会を承認。
2. 第20回日本IVF学会学術集会との共催：テーマおよび方法を承認。

事務局からのお知らせ

1. 第15回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
2. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
3. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めをお願い申し上げます。
4. これから異動・転居が増える時期になります。該当される方は必ず事務局までお知らせください。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます。
5. 会員数356名(平成29年1月10日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

●次号の原稿締切日

ニュースレター第47号の原稿締切日は、2017年5月22日(月)を予定しています。

◆編集後記

春の訪れを待ち遠しく感じるこの時期、皆さま体調を崩すことなくお過ごしでしょうか。

インフルエンザや食中毒などに注意しつつ、健やかに新年度を迎えましょう！

広報委員会 實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

TEL & FAX : 03-5550-2293 E-mail : jsin@slcn.ac.jp ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号 : 00170-2-333414 加入者名 : 日本生殖看護学会